

朝潮運河歩行者専用橋の計画

中央区 土木部 道路課

青木 勉

中央区 土木部 道路課

井上 英公

(株) エイト日本技術開発

正会員

梶木 洋子

(株) エイト日本技術開発

正会員

○古閑 徹也

1. はじめに

朝潮運河の歩行者専用橋は「黎明橋およびトリトンブリッジ周辺における歩行者の混雑の緩和」や「朝潮運河沿いの行き止まり街路の解消による災害時の避難路確保」を目的とし「中央区基本計画 2008」に位置付け、整備が進められている。

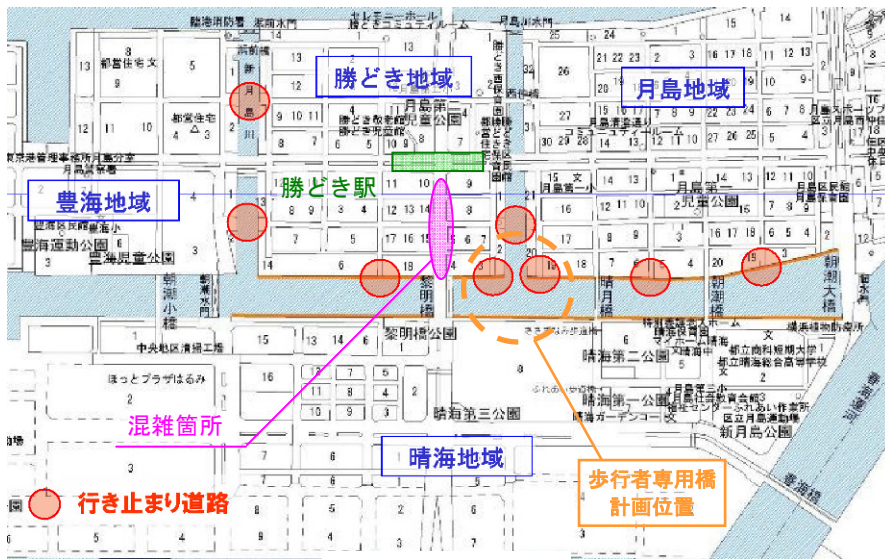


図 1.1 計画平面図



写真 1.1 混雑状況

整備にあたり、地域等から様々な意見が寄せられたことから、平成 21 年 10 月「朝潮運河周辺における良好な歩行環境の実現に向けた検討会（座長：山田正中央大学教授、以下、検討会と称す）」を設置し、架橋の有効性や橋梁形状、幅員等について意見交換や議論を行った。本稿では、架橋および橋梁形式決定にあたり、関係者・地域の合意形成にいたる過程を報告する。

2. 架橋目的

主な架橋目的としては以下の 2 点である。

①晴海通りの歩行者の混雑緩和

②朝潮運河沿いの行き止まり道路の解消による災害時の避難路確保

また、月島・勝どき地区は明治・大正時代の石積護岸が現存する歴史的な地区であり、晴海地区を加えた 3 地区が面する朝潮運河と月島川は東京の貴重な歴史的な水辺空間である。現状では地区間の回遊性が弱く、相乗効果を発揮できていないことから、架橋事業によって、水辺空間の魅力向上と地域の活性化を目指した。

3. 事業プロセス

本事業では、区と地域住民とが朝潮運河周辺地域における歩行環境の問題点を共通認識とすることで、今後の改善の方向性についての合意形成を図り、良好な歩行環境を早期に実現することを目的に、学識経験者や地域住民の代表、運河関係者、東京都及び区の担当者などから構成される検討会を設け、整備計画の検討および協議を行った。

キーワード 橋梁計画、合意形成、住民参加、景観

連絡先 〒164-8601 東京都中野区本町 5 丁目 33 番 11 号 株式会社エイト日本技術開発 TEL03-5341-5144

4. 検討会開催による合意形成

(1) 当初整備計画

基本設計段階では、3地区の連携強化と水辺のにぎわい創出に主眼をおき、X型やO型の橋梁形状を提示した。図4.1にイメージパースを示す。幅員については、歩行者および車椅子の対面通行を想定した最小幅員である3.5mを設定した。

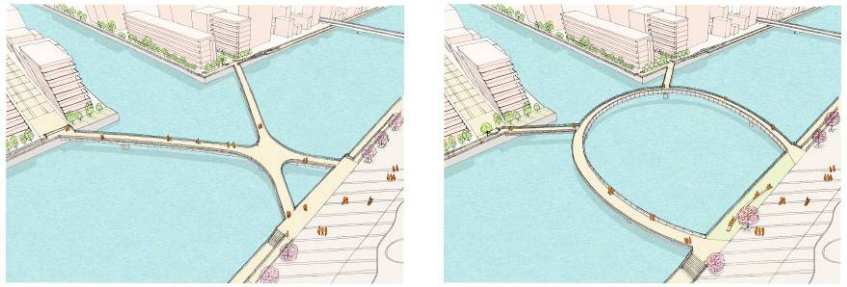


図 4.1 イメージパース

(2) 検討会における意見

検討会意見やアンケート結果からは下記の意見、要望が多く挙がった。

- ・架橋地周辺の建物に対するプライバシー確保や住環境への配慮
- ・ユニバーサルデザインへの配慮
- ・防災面を考慮し、できるだけ広い幅員を希望

また、橋梁の形状についてのアンケート結果を整理すると、プライバシーに配慮している点や防災性を考慮したシンプルな形状を重視しており、回遊性や距離を重視した意見は少なく、形状としては変形X型が良いとする意見が多く挙がった。一方で、距離の短い真っ直ぐな橋の優位性についての意見もあり、橋梁形状については再検討を行った。

(3) 橋梁形状の再検討

検討会における意見やアンケート結果を踏まえ、幅員は4.5mへ変更し、Ⅱ型案を加えた検討結果を提示した。写真4.1に模型写真を示す。

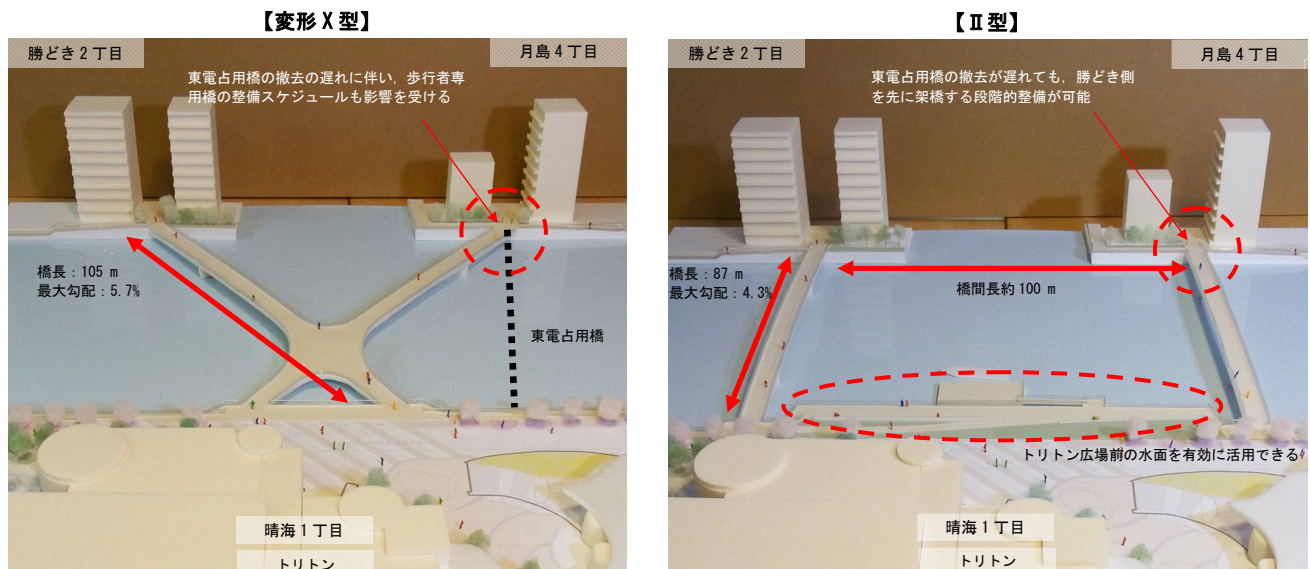


写真 4.1 模型写真

5. おわりに

本事業では、平成21年10月～平成23年10月まで定期的に検討会を開催し、熱心に議論を重ねてきた。第9回の検討会にて、橋梁はⅡ型を基本として詳細設計を進めていくことで、構成員の盛大な拍手により合意を得ることができた。今後は詳細設計を進めるとともに、検討会にて整理された要望であるプライバシーの配慮、接続道路や橋詰空間の設計方法、歩行者の安全対策といった課題について検討を進め、地元への説明などの準備を行っていく予定である。